

私立大学情報教育協会
平成27年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

F-2班

1

発表テーマ

学生の意識改革

2

テーマ選定理由(1) 大学の役割

私たちが考えた大学の役割

(建学の精神により)

時代に合わせて社会貢献できる人間性の育成

役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

- ①社会が求めている「核」となる人材を育成する。
- ②大学生活を通じて若者の可能性を引き出す。

テーマ選定理由(2) 大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

- ①学生に察知力、行動力が欠けている
- ②情報提供しているが目標をもって日々頑張っている学生が少ないので自分の可能性を引き出せていない

役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？

- ①社会を読む力、察知力、行動力が必要になってくるが、座学での講義では育成が不可能
- ②若者の可能性を発見させるためには、知識、自己分析、コミュニケーション力が必要



学生の意識改革

問題点の深堀

①行動力、察知力を伸ばす講義が不足している

- ・課外活動(市場調査)、足を運んで調べるフィールドワーク型授業が少ない
- ・考えの異なる学生との交流・協力の場が不足している

②コミュニケーション・知己の機会が少ない

- ・コミュニケーションする機会の提供がされていない
- ・入学時から卒業後の就職のことは何となく意識はしているが、何を
してよいかわからない
- ・相談できる先輩がいないと将来像が描きにくい

大学のイノベーションの提案1

・提案の概要

他学部と連携したグループでのフィールドワーク推進

・何を問題として捉えたか

学生の察知力、行動力、知己やコミュニケーション力

・問題を解決する方法として何を提案するのか

主体的な学びの機会を与えて、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。また、グループワークを通して意識を高める。

・これを実現するために、どのようなアプローチが必要か。

-大学としての取り組み:グループでのフィールドワーク増加・必修化

-教員への働きかけ:大学全体の課題として共有する。

-職員の役割:他学部同士の調整

-社会(もしくはステークホルダー)への働きかけ:ワークショップ

-解決策実現のためのハードルと、その打開策:教員の理解→教員への勉強会、教員にもグループワークを。

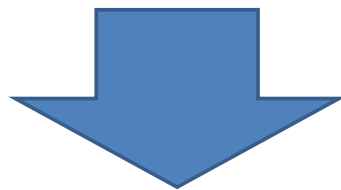
大学のイノベーションの提案2

- ・提案の概要
ポータルサイトによるOBOG、先輩学生、教職員の活用
- ・何を問題として捉えたか
学生の知己やコミュニケーション力が弱い
- ・問題を解決する方法として何を提案するのか
気軽に相談する場を提供することにより、他者を知り、自己の可能性を発掘する。
- ・これを実現するために、どのようなアプローチが必要か。
 - 大学としての取り組み: 気軽に相談できる場の提供
 - 教員への働きかけ: 協力依頼
 - 職員の役割: ポータルサイトへの学生の誘導、システムの導入
 - 社会(もしくはステークホルダー)への働きかけ: OBOGへ協力依頼
 - 解決策実現のためのハードルと、その打開策: 協力してくれるOBOG等の確保
→在学中に協力体制を築く。

7

解決されたときの姿

目的意識が高まり、正課、課外活動等への参加が積極的になる。



学生の意識改革

8